

震災後、余震や放射能にさらされ、もつとも不安な日々を送っているのは妊婦なのではないだろうか。小さな命を抱え、逃げ惑っているのに政府の支援は心もとない。社会もあまりに無関心だった。母親が希望と愛情をもって赤ちゃんを産み育てる。大事なことなのに平時でも難しくなっていることを実現するために、宗さんは今日も奔走する。

福島県いわき市在住の本田美香さん(29)は、奇しくも3月11日の朝、お腹に第2子を宿していることを知った。だが、新たな命の芽生えを喜ぶ間もなく、原発事故の報を聞き、夫と1歳2カ月の長男とともに京都の夫の実家に自
大震災後、凍えながら車の中で過ごす妊婦がいた。放射能から逃れ、遠い親戚の家に身を寄せて、縮こまって生きる身重の母と幼い子供たちも。千200例以上の出産を手がけた助産師。母と子に心地いい環境を作ることには人生をかけてきた宗さんには見過ごせなかった。被災地のお母さんたちにも、実家で産むような出産を！

命を育めるのは



流浪する福島 の妊婦を救った 「東京里帰り プロジェクト」代表 助産師・宗祥子さん(59)

松が丘助産院で出産したママたちは、宗さんを母のように慕っている。みな笑顔いっぱい、大家族のような雰囲気だ

あつてこそ 安心が

刻々

（文）



自宅で寛くように滞在できる松が丘助産院の一室で語る宗さん。夫や上の子供に見守られながらお産に臨むことも可能だ

ちのおかげでどんどん事が運んだんです」
10日足らずのうちに15カ所の助産院が50人の受け入れを快諾してくれた。資金面では、当初から自分たちで寄付を募っていたが、それに加えて4

月半ばには日本財団が3千万円の助成金を決定してくれた。「妊娠中から産後1年までの被災者を対象に、助産師が出産や産前産後の生活をサポートし、実家に里帰りするような気持ちで過ごしてもらおう。希望者には病院での出産や上の子供の保育園のアレンジも行う」などを活動内容とし、正式に「東京里帰りプロジェクト」と名付け、4月7日にホームページを開設。それを閲覧した企業や個人に支援の輪が広がっていった。

「必要とされていないのだからか」と落ち込むこともありま

町義父の弟の妻の妹の家族4人、総勢12人が避難させてもらいました。血のつながりもないのに1カ月半もお世話に。本当に感謝です。でも、夫の会社が再開し、3月下旬からいよいよ帰ってしまつた。残された娘と2人で不安に押しつぶされそうでした」

「帝王切開後3日で退院、自宅が流された妊婦などの悲鳴に近い声が入っていたら経営が成り立たない。だから、お金は必ず私が集めますから業務としてやってくださいとお願ひしました。もちろん資金調達のためなんてありませんでした、という思いだった。実際、なんともなるものなんです。いろいろな出会いがあって、その方た

した。でも、現地の助産師から、妊産婦は避難所生活が難しいため車の中で生活する人もいたという。必ずつて私たちが必要としている方がいるはずだという確信はあった」

で、母は私を家にひとり置いて仕事に行っていました。全然、手のかからない子だったから。でも、だんだん私がごはんを食べなくなつた。これは放っておいてはダメだということ、鹿島島の親戚の家に預けられることになったんです。おとなしい子だったので必死に求めることはなかったけれど、やはり甘え足りなかつたんでしょね」

6月に生まれた謙くんを囲む聡子さんと義父・貞次さん。[助産院での体験は息子にいつか話して聞かせたい]



助産院の生活で心と体が癒され、切迫流産の危機を乗り越えた美香さん。11月に生まれる赤ちゃんを心待ちにしている

※助産師を管理者とした入院床数9床以下の施設。妊婦検診から分娩、産後まで一貫して診察、指導、介助を行う。



宗さん夫婦と長女・千洋ちゃん、二女・香里ちゃん。父手作りの堅いパンが、千洋さんの幼いころの思い出だ

「義父の弟の妻の妹の家です。そこに私たちの家族5人とひとなか市の親戚3人、富岡

町義父の弟の妻の妹の家族4人、総勢12人が避難させてもらいました。血のつながりもないのに1カ月半もお世話に。本当に感謝です。でも、夫の会社が再開し、3月下旬からいよいよ帰ってしまつた。残された娘と2人で不安に押しつぶされそうでした」

「帝王切開後3日で退院、自宅が流された妊婦などの悲鳴に近い声が入っていたら経営が成り立たない。だから、お金は必ず私が集めますから業務としてやってくださいとお願ひしました。もちろん資金調達のためなんてありませんでした、という思いだった。実際、なんともなるものなんです。いろいろな出会いがあって、その方た

た新潟の「赤ちゃん一時避難プロジェクト」に息子と2人身を寄せるが、移動の無理がたたって切迫流産の危機に。入院を勧められ、福島市の実家を頼ったが、そこはホットスポットになつていった。

「母から、ここにはいないほうがいいと言われました。母は働きながら、末期がんの祖父の介護もしていたので、余裕がない。福島で入院したら上の子は誰が見るの？」と。

被災地には、絶え間ない余震と放射能におびえ、避難先を求めて彷徨い続ける母たちがいた。そして東京では、そんな彼女たちの身を案じる人がいた。中野区松が丘助産院長、東京都助産師会副会長の宗祥子さん(59)だ。

「助産院(※)は規模が小さな施設。長期間、無償で受け

災害地の妊産婦を受け入れ、産前産後のケアをしてはどうかと考えたのだ。この瞬間から、彼女は全速力で走り出した。



私も城本クリニックでキレイになりました！
お悩み別に解決!!
城本クリニック

本格的なたるみ取り術
フェイスリフト
たるんだ皮膚を取り除き、フェイスラインを引き上げすっきりさせます。

目の上、目の下のたるみ取り術
目の上下のたるみは特に老けた印象を与えてしまいます。目の上、目の下のたるんでしまった余分な皮膚や脂肪を取り除けば、若々しい印象の目元になります。

メスを使わないシワ・たるみ取り術
サーマクール
世界最高水準のシワ・たるみ取りレーザー。ダウンタイムなし！1回で施術完了！

ミラクルリフト
強力なリフトアップ効果！切らずに頬のたるみとシワを改善！

シミ取り最新美肌治療
フォトフェイシャル
光を顔全体に当て、複数の顔トラブルを改善し、美肌へと導きます。

その他の施術
二重まぶた/目頭切開法/目尻切開法/隆鼻術/シワ・たるみ/PAP療法/超音波脂肪吸引/脂肪溶解注射/豊胸術/陥没乳頭/乳頭縮小/乳輪縮小/ウキガ/多汗症/エラ骨削り/ホクロ・イボ取り/やせ薬・食欲抑制剤/プラセンタ・VC注射/医療レーザー脱毛/シミ取り/ケミカルピーリング/マクロビール/ラティース/肝斑徹底プログラム

受付フリーダイヤル イオンクリニック
0120-107-929

ホームページ
http://107929.jp
無料メール相談実施中
info@107929.jp

安心の全国ネットワーク
新潟・長野・群馬・山梨・金沢・高松・水戸・大宮・立川・柏・津田沼・横浜
静岡・名古屋・豊橋・岐阜・四日市・京都・神戸・姫路・岡山・広島・松山・福岡・長崎

リズ間

した。初めは興味深く聞いてくれたが、やがて疎ましがられるようになる。

「ある友人は産前産後もずっとタバコをやめないような人。赤ちゃんの気持ちを全然わかってない、かわいそう!」と思うと放っておけなかった。でも、自分の子育てに意見されたら嫌がりますよね。しかも、私は素人だから余計に反発される。だったら専門家になつて言おう、おせっかいは



「お腹が冷えてるね。遅くまで起きてちゃダメよ」と指導する宗さん。オイルマッサージで妊婦さんの体を温める

「会陰切開してすぐ痛かった。でも、生まれた瞬間、愛情がこみ上げて、痛みなんてふっ飛んでしまった。そんな体験をさせてくれた助産師さん、なんでもすればいい仕事なんだろうと思った」

宗さんは、激しい痛みにもバ

「妊娠出産って心がむき出しだから、風が吹いても染みるのよ」

助産師への道のりは長く険しいものだった。まず看護学を学ばなくてはならない。経済的余裕がなかった宗さんは、自らをギリギリの環境に置くことで一発合格を狙った。区役所を12月に退職し、毎日10時間、机に向かった。

見事、3カ月後の受験で東京医科歯科大学医学部保健衛生学科に合格。途中、二女と

あさんを職業にしようと、36歳で決意したんです」

他人の子にまで向けられるほど深い母の愛。その愛をもって、子育てに全身全霊を傾けてきた宗さんだが、意外にも彼女の強い母性には、母との関係が影響していた。

宗さんは振り返る。

「母はいつも正しい人でした。でも、優しい母というのでは

ニック状態に陥ったという。そんな彼女を落ち着かせ、支えてくれたのが助産師だった。不安や痛みを和らげ、母となる喜びに導く。出産の余韻に浸るなかで、助産師を一生の仕事としたいという思いが強まっていた。

長女は、生まれたときから顔が赤く腫れあがっていた。宗さんは、職場の同僚から教えられ、助産師の山西みな子さんを運営する自然育児相談所を訪ねてみることにした。

「妊娠中から何を食べていたのかを聞かれました。すると先生が、卵アレルギーだと即答したんです。ああ!」と思

「一晩中、痛がる夫の体をマッサージして翌朝はお産。どうやって時間を配分したか思い出せないほど仕事も看病もがんばった。燃焼しました」

がん宣告から8カ月後、夫は42歳という若さで逝った。3人の子供を育てるため、助産師の職を極めるため、宗さんはこれまで以上に邁進する。

「丸々一昼夜かかったお産が終わって、はあーと息をついていると、すぐに次のお産が始まるような毎日でした。それに、自分の体にちゃんと向き合えない人には必死で寄り添った。お産には妊娠中の生活が大きく影響するんです。だから、妊婦さんに昼夜、張りついて厳しく指導した。助産院に籠城してた感じ」

後の3年間でスタッフは増えたが、出産件数も増加。宗さんは多忙を極める。息抜きに映画に出かけてもお産が始まると呼び出され、結末を見ずして飛んで帰ることも。

「身も心もお産、お産で生きてきた。体ポロポロです。でも、一度も仕事を辞めたいと思つたことはありません。長女を産んだときから、これが私の天職だと思つてたから。どんなにたいへんなお産でも、赤ちゃんが生まれてきた瞬間、苦労がすっと飛んでいく。ケアした分だけ確実に成果が見える本当に楽しい仕事」

「お産が冷えてるね。遅くまで起きてちゃダメよ」と指導する宗さん。オイルマッサージで妊婦さんの体を温める

宗さんは助産師への一歩をなかなか踏み出すことができないままだった。夫が定職についていなくなったからだ。

「夫は常にマイペース。プロ級の腕前のギターを弾いてさえいれば幸せというような人。宇宙人と暮らしているみたいでおもしろかったんですが、実生活となると難しいところがある。だから、安定した公務員の仕事を辞める決心がなかなかつかなかった」

そんな宗さんが決意を固め

「母の料理は本当においしい」と家族中が絶賛。味を受け継いだ長女・千洋(右)さんは、食事も担当



「母の料理は本当においしい」と家族中が絶賛。味を受け継いだ長女・千洋(右)さんは、食事も担当

松が丘助産院で、ママ同士の交流の場として「産後の会」を催す。この日はベビーマッサージ教室が



「母はいつも正しい人でした。でも、優しい母というのでは

わかったとき、タンパク質も取ったほうがいいのかと卵を食べ始めた。それが原因だった」

宗さんは、すぐに食生活を切り替えた。すると、3日目から娘の肌の赤みが薄れ、3カ月後にはツルツルになった。

「私の食べたものがこうやって子供に影響するんだということ、身をもって知りました。だから、アレルギーを治したい一心で、食事にはものすごく気を遣った。復職後も昼休みに娘の保育園に自転車通って母乳をあげた。娘がかたくなに粉ミルクを嫌がったんです。自分でも味見してみただけ、私のおっぱいって本当においしい。赤ちゃんなりに味がわかっていただんだと思う」

もうひとつの出会い、宗さんが、おっぱいばあさん、と呼ぶ母乳のスペシャリスト、

今年9月3日早朝5時。そんな宗さんの手がけるお産が始まった。閑静な住宅街の一角に佇む松が丘助産院。懐かしさを感じさせる和風家屋の一室で、勝野香代さん(33)が産みの苦しみに耐えていた。

「ううううっ、ううううっ」

痛みに言葉も出ない。動物の威嚇の唸りにも似た声だけが響き渡る。夫が祈る思いで見守っている。

香代さんの体は元来、緊張しやすく、硬くなるほど痛みが増してしまいうらしい。整体師がマッサージを施すが、子宮口は開いてくれない。

「トイレに行ってみる?」

宗さんが声をかける。階段の上り下りなど、体勢を変えらることで出産が促されるといいうが、トイレまでの移動で精いっぱいの子供だ。やっこの思いで便座に腰を据えたとき、照明が落とされる。日中

しわたるみ 若返り

相談件数急増中! あなたの悩みも解決!

医療事故ゼロ・高度な技術

美容外科

お探しします 相談・紹介

美容整形、失敗しないための 最適クリニック情報



初めて美容整形を考える方に、美容整形経験のあるスタッフが中立的な立場で、技術に信頼のおけるドクター、クリニックの情報のみをご紹介します。お客様一人ひとりの悩みを真剣に受け止め若さを取り戻す第一歩をサポートします。

全国ネット クリニック紹介無料
相談無料 プライバシー厳守

0120-999-970

10:00~24:00 (年中無休) 女性自身

ホームページ www.soudan.tv

トップビューティーセンター/東京葛飾区東久米2-46-2



美容のために
私の毎日の
キレイに
欠かせません。

25年前から愛用しています。
80歳を過ぎて元気で、
畑仕事や婦人会の活動も
やっておりますよ。

毎朝スッキリ！
健康な毎日も保つて
います。

美容のために
私の毎日の
キレイに
欠かせません。

シヤキツとした
健康な毎日が
過ごせています。

※お客様の体験談であり
使用感には個人差があり
ます。

- ◎53種類以上の果物・野菜・海藻など種や皮も丸ごと3年3か月以上発酵・熟成させました。
- ◎保存料・添加物 無添加だから安心です。
- ◎植物性の素材を使っているから、赤ちゃんからお年寄りまでお召しあがりいただけます。

おかげさまで
累計850万個
突破!

※万田酵素シリーズ累計出荷量
(2011年5月現在)

まずは**無料**で
お試ください。

万田酵素プラス温お試しモニターセット
[1袋(4~8日分) 2.5g×8包入]

キャンペーン期間 11/17まで

【応募要項】
●万田酵素プラス温を初めてお試しになる方
●お試し後簡単アンケートにお答えいただける方
●1世帯1回限り

お申し込みは今すぐ!!
通話料無料電話・ハガキ・FAXで

通話料無料
0120-85-3680

FAX

0120-85-3789

受付時間/8:30~21:00(年中無休)携帯・PHSからもご利用いただけます

【お試しセットのお申し込みについて】
●初めてお試しいただくお客様で一人様1個に限らせていただきます。
●1世帯で1回限りです。
●メール便でお届けいたします。
●簡単なアンケートにお答えいただける方。
●必要事項に不備がある場合は、商品をお届けできない場合がございます。
【商品のご注文について】
●お届け：ご注文確認後10日以内に宅配にて●お支払い：商品到着後7日以内に郵便・コンビニ振込、代金引換にて(本商品を3袋以上ご注文の場合は代金引換とさせていただきます)●返品について：未開封に限り電話連絡のうえ、商品到着後10日以内(返品送料はお客様負担です)【個人情報について】
●お客様の個人情報は、弊社からお客様への商品、サンプルの発送、郵便・電話・電子メール等による商品のご案内に利用させていただきます。

万田発酵株式会社 www.mandahakko.com

カラダに「万田酵素」の生命力を

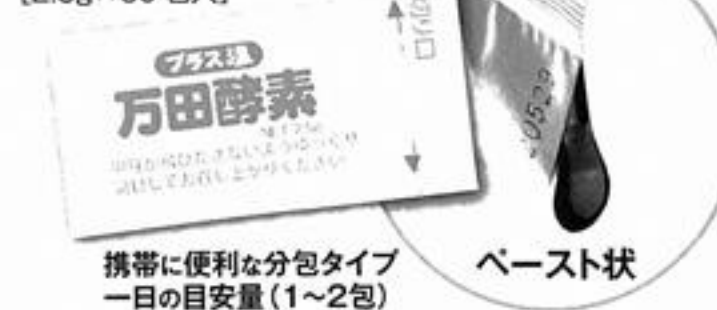


私も20年以上前から「万田酵素」を愛用しています。

女優 東ちづるさん
健康に気をつかいはじめた頃、知人にすすめられて食べ始めました。この万田酵素、偶然にも私の故郷因島でつくられていたんです。気付けば元気になり、すぐに気に入って母にもすすめました。今では家族みんなが愛用しています。

注目の「しょうが」をプラス
植物発酵食品
万田酵素プラス温

通常価格 6,300円(税込)
[2.5g×30包入]



便利でお得な定期便もあります
万田酵素プラス温
[2.5g×30包入]
毎月1袋お届け) 5,670円(税込) 送料別

ハガキ

722-8790

郵便事業株式会社
尾道支店 私書箱33号

万田発酵(株)

女性自身 10/18 発行

- 女性自身 10/18 係
- お電話番号
- お名前(フリガナ)
- 郵便番号
- ご住所(フリガナ)
- 生年月日
- 性別
- お申し込み(商品名を明記)
- プラス温お試しモニターセット1個
- プラス温 定期 ○袋

〒722-2192 広島県尾道市因島重井町5800-95

リズム間

は陣痛が弱まってしまふことがあるからだ。だが、薄暗がりの中で集中しても、波はやってこない。部屋に戻り、さまざまな体勢をとってみるが進展はない。そんな香代さんに宗さんやスタッフの声がかける。

「うまくいきめてますよ、赤ちゃんもがんばってますよ」
「励ましに勇気づけられるがどうしても産み落とせない。そのとき、宗さんが一段と声を張り上げた。」
「勝野さん、もう産めるよ!もう産もう! 私がちゃんと誘導してあげるから! 痛みから逃げちゃダメ! 痛みに向かっていって!」
「香代さんの覚悟が決まった。分娩椅子に座る。正面に座った夫の首に両腕を回し、その手を握る。優しく頭を撫でてくれる。それに後押しされて渾身の力を使いこむ。」
「あっ! 頭が見えてきたよ。香代さん、がんばれ!」
香代さんの耳元で夫が叫んだその瞬間、元気な女の子が誕生した。

助産院とは、母と助産師がその全力を合わせて、新たな命を世に送り出す現場だった。開業から13年。これまでに200例以上の出産を手掛けた宗さんが、常に心がけてきたことがあるという。

「妊娠出産って、心が裸になるの。むき出しなの。だから、風が吹いても心に染みるのよ。そのとき、やさしくされたら一生、記憶に残るし嫌なこと」

「ようやく、今、希望を持って命を育める気持ちを取り戻せた」

そんな宗さんと出会い、今、希望を持って新たな命を育もうとしている人たちがいる。いわき市の明石恵さん(35)は、12月上旬、松が丘助産院で第2子を出産する予定だ。

「4月中旬、テレビのテロップでプロジェクトを知りました。転々と避難していたので救われる思いでしたが、助産院と聞いて最初は不安だった。医療的に遅れたイメージがあったから。でも、実際にお世話になって、助産院で産みたいと思うようになった。ちゃんと病院と連携しているし、食事指導やお産を軽くするためのアロママッサージまでしてくださる。宗さんは実の母以上に親身になってくれます」

8月から都内の助産院で生活する美香さんも言う。

「本当はとても幸せなことな

をされても残る。だから妊娠中は厳しく怒るけど産むときは精いっぱい、大事にするんです」

自分の体に向き合うことで、安全なお産が導かれ、子供の健康と母子の絆が育まれる。それが宗さんの考える理想のお産だ。被災地の実情は、それを許さない。だから彼女は、母と子を守るため、プロジェクトを立ち上げたのだ。

「最初は妊娠を喜ばなかった。放射能の影響も心配だったし、産む場所も決まらなかったから。でも、宗さんに会って、やっと居場所が見つけられた。私を見た瞬間、冷えたタメといつて、レッグウォーマーと腹巻をくれて。厳しけれど、その裏に愛情が感じられてうれしかった。近くに息子の保育園まで手配してくださったので、ゆっくりさせてもらえて。今では出産が本当に楽しんでいます」

無事に出産を終え、今はいわき市で家族に囲まれて暮らす勝子さんは、今回の経験を次のように語ってくれた。

「きっかけはいいことではなかったけれど、このことがあったから多くの方の温かさに触れられた。家族の大切さを改めて感じることもできた。長女



「すてきな笑顔で天職だと思っけど、体を壊しそうな働き方が心配」と長男・秀孝くん。母・珠子さんと姉の明子さんと二女の香里さん。家族は強い絆で結ばれている

助産院とは、母と助産師がその全力を合わせて、新たな命を世に送り出す現場だった。開業から13年。これまでに200例以上の出産を手掛けた宗さんが、常に心がけてきたことがあるという。

「妊娠出産って、心が裸になるの。むき出しなの。だから、風が吹いても心に染みるのよ。そのとき、やさしくされたら一生、記憶に残るし嫌なこと」

「ようやく、今、希望を持って命を育める気持ちを取り戻せた」

自分の体に向き合うことで、安全なお産が導かれ、子供の健康と母子の絆が育まれる。それが宗さんの考える理想のお産だ。被災地の実情は、それを許さない。だから彼女は、母と子を守るため、プロジェクトを立ち上げたのだ。

「最初は妊娠を喜ばなかった。放射能の影響も心配だったし、産む場所も決まらなかったから。でも、宗さんに会って、やっと居場所が見つけられた。私を見た瞬間、冷えたタメといつて、レッグウォーマーと腹巻をくれて。厳しけれど、その裏に愛情が感じられてうれしかった。近くに息子の保育園まで手配してくださったので、ゆっくりさせてもらえて。今では出産が本当に楽しんでいます」

無事に出産を終え、今はいわき市で家族に囲まれて暮らす勝子さんは、今回の経験を次のように語ってくれた。

「きっかけはいいことではなかったけれど、このことがあったから多くの方の温かさに触れられた。家族の大切さを改めて感じることもできた。長女

は私が泣いていると。ママ、そんなに泣かないの。大丈夫だから。がんばろう。って。この経験は私の人生の財産です」

今日までに、66人の妊産婦支援を行ってきた「東京里帰りプロジェクト」。来年3月で終了する予定だが、その後について宗さんはこう話す。

「原発事故の収束にはまだ時間がかかるでしょう。今も東京には自主避難している福島の方がたくさんいるんです。もちろん、ほかの被災地の妊婦の方々もどんどん訪ねてきてほしい。現地の助産師を後方支援する形でもかかわっていきたくと思っています」

人生最高の時間を我が子に与えてもらったという宗さん。だから彼女は、助産師という仕事を通し、母になること、すばらしさや子育ての楽しさを伝え続けてきた。

「被災地のお母さんは今も不安を抱えています。だから、私たちが支えるよ、心配しないで赤ちゃんを産んで」と、メッセージを送りたかった。

苦しいときだからこそ希望を持ち、母となる喜びを味わってほしい。それが同じ母として、そして助産師としての宗さんの願いである。

取材・文/長谷川まり子
撮影/藤谷清美

「東京里帰りプロジェクト」問い合わせ先 電話080-3915-9923(平日10~16時) 090-4611-0904(時間外) 公式HP(携帯からもアクセス可) http://www.satogaei.org/ ※問い合わせはなるべくHP内の問い合わせフォームからお願いします。